
届かぬ言葉、聞こえぬ声

翠蓮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

届かぬ言葉、聞こえぬ声

【コード】

N0054B

【作者名】

翠蓮

【あらすじ】

あなたの声が聞こえないのならば、生きている意味など何一つないというのよ...

前編

涙が渴ききるまで一晩中泣き続けた結果、声が枯れた。

目元も赤く腫れ上がり、体はまるで重い石になったかのように、疲れ切って少しも動けない。

周囲には帰って来た時に暴れて投げて壁に当て、蹴り飛ばされて壊れてガラクタ同然になったモノがゴミ捨て場の山みたいに、秩序無く無差別に転がってる。(…お父さんとお母さんが居なくて良かった)

父は三日前から東北に出張、母は昨日から叔母さんと温泉旅行に行っている。

グットタイミングとはまさにこの事だ。

もし二人とも家に居れば、半狂乱に近かった自分を見て、理由を問いただし、必死に止めようとしただろう。

そんな事をされたら頭に血が上ってうた自分は何をしたか分からない。

下手をしたら傷付けていたかも知れない。

それを思うと本当に二人とも不在で良かったと改めて思った。

それにしても

(ぞじじしていんな事になつてしまつたんだらう)

中編

事の起こりは昨日の夕方

『別れよう』

一瞬、何を言われたのか理解できなかった。

目の前が地震の時みたいにグラグラして足元から崩れていくような気がした。

『 えっ、ちょよ、ちょっと待って。どうしてそんな、いきなり』

『別に何かお前といっても友達以上の楽しみを感じなくなったし、そろそろお互いの為にも一緒に居ない方がいいかなって思ったんだよな、だから別れようぜ』

あいつが私の大好きな、どこか人懐っこくて憎めない笑みで言ったのと同時に、私の中の何かを音を立ててガラガラと崩れていくのが分かった。

付き合って約一年目の破局だった。

楽しく無くなった、が彼の言った唯一の理由。

しかし、そんなもので納得しろだなんて無理な話だ。

一体何が楽しく無くなったのだろうか。

ただ単に自分に飽きただけなのだろうか？

確かにこの頃は互いに部活とかバイトとかで忙しくて会う機会も少なかったが、それでも自分は一緒に要られるだけで楽しかった。

それでは駄目だったというのだろうか？

それだけでは物足り無かったのだろうか？

（それでも私は）

あなたのことが好きなのに

小学六年生の頃からの知り合いだから、かれこれ七年ぐらい一緒に居る幼なじみ。

最初は単なる幼なじみに過ぎなかったが、中学の時に意を決して告白した部活の先輩に酷い言葉で振られたのを、何気ない態度や言葉で気遣ってくれたことから気になり始め、次第にかけがえのない存在になっていった。

それは一年前、彼から告白されて付き合い始めた時に気付いた。

彼が笑うたびに嬉しくなり、彼が怒るたびに酷く辛くて悲しかった。

彼の声を聞くたびに心躍り、自分の目は彼の姿を常に追っていた。

なのに

後編

(あなたが居なくなつた今、私はどうすればいいの?)

今まで通りに友達の関係に戻ろうと言われた。

けど自分の頭の中は彼で埋め尽されていて、後戻りなど出来ない。

(ああ、まるであの時の蝶みたい)

ずっと昔 テレビか何かで見たあの蝶のよう

蜘蛛の巣に囚われ、逃げようと動くたびに逆にその身を傷付け、最後には羽をもがれて死んでしまった蝶

まるであの蝶のように、自分勝手な未練に縛られて、身動きできず、死んでいく

『…死?』

その言葉を口にした瞬間、突然視界にあるモノが飛び込んできた

(ああ、そうか。そうすればいいのか)

あまりに簡単な事なのに、今更気が付いた。

おもむろに左手をテーブルへと伸ばす

そしてそのあるモノを手を取った

(あなたの声が聞こえないなら)

そしてベッドの上に座り込み、壁に背をもたれて呼吸を整える

(あなたを見ることが出来ないなら
チキチキと音を立ててそれを伸ばす

(全てを終わらせてしまえばいいんだ 何も無かったかのように
)

もはや私の思考回路は止まっている

今は目の前のあるモノだけを見ていた

そして

真っ赤な液体が噴き出したのは、果たして後だったのか先だったのか私には分からない そう…私はカッターで首の血管を切り裂いた
もう何かも終わりだ

『 つつ 』

何故か……最後に彼の声が聞こえた気がした

後編（後書き）

よく分からない感じで終わってしまいました…；

最後まで読んで下さってありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0054b/>

届かぬ言葉、聞こえぬ声

2010年10月16日10時25分発行